



富士川文庫

3187

498.2

Ka

No. 206

懐妊避妊自在法

緒言

人々人口の繁殖を以てこの上もあき國家の美
 事とすれとその大なる了簡違あり未だ我邦に
 のれをとも現に佛國及び英國等にて専ら人口
 の繁殖を防ぐとへり人口夥多きその國の疲弊
 する基あればあり又婦人のしばく出産するとき
 のそれがさめに健康を害し子宮病等を引起すもの
 ありその例少ならずよ下等社會の中に子女の



東京女子大学

5816

夥多きがために一家の生計を失ひ終に墮胎生殺等の悪習に陥りしりつ、天理に背き國法を犯すものあり實に歎るはしきまとあらずや故に世人の之を未萌に防ぶんがためにこの書中に避妊の自由あるを示しまさ子女を得んとしてもおれを得ざるより多くの婦女を聘して妄淫に耽りあやしくおれを得ずして遂にその身を損害ふもの、爲めに懐妊の自在あるを説き加之男兒にても女子にても求めんとする所のものを自在に得可き法を載て看官幸に

著者婆心の切あるを見誤るあられ

編者識を

目次

○ 懷妊の理

○ 不妊の理

○ 懷妊自在法

○ 避妊自在法

○ 男兒女子を自在に得る法

以上

懷妊避妊自在法

懷妊の理

平野助三編輯

男女だんな交あ合あして懷妊くわいにんする理りの男子だんなの精液せいじき中ちゆうにあると
 まるの精虫せいちゆう交あ合あは際婦人さいふじんの卵子らんじに觸ふれて胎孕たいごするも
 のありまの精液せいじきと血ちふもの一いつ身の精血せいけつにして精
 動脈どうみやくと血ちへる腎臟じんざうの處ところより睪丸たいくわんに連つなる脈みやくを經へて
 睪丸たいくわんに入いり始はめて精液せいじきに化かしそれよりまゝ輸精管しゆせいくわん
 と血ちへる睪丸たいくわんより精囊せいのうに血ちする管くだを過たぎて膀胱はつたうの

裏面にある精囊の中に常にありて交合の時射精管
といへる精囊より陰莖へ精液を送り出さる管より逆
射るものあり而して懐妊に最も要用あるもこれ
の精液中に在るとあるは精虫なりとそこの精虫と
いへるもこれ顯微鏡にて見るときは殆ど蝸蚪のこ
とさきものにて首大にして腦髓脊髓及び尾節ありこの
もの婦體の卵子に喰入りて胎孕をなすものなり婦
人のまゝ月經の來る頃より子宮の兩側にある卵巢
内の卵子自然にその胞を破りて四週日毎に一個或は

二個を脱せんとそこの時子宮のこれが爲めに血液
充滿してこれを漏すこれを月經といふ其の止むを
待ちてその卵子脱せんとし剪糸といふ喇叭管小宮
の左右より卵巢に通ずる管の先にある花の形ある
もの、蠕動にて喇叭管へ迎へそれより子宮に來る
ありこの時交合あすによりて男子の精液中の精虫
婦人の子宮に入りその卵子に喰入りてその体を藏
むこれ懐妊の始なり其のとき卵子は内に二箇四
箇八箇等偶數の小球を生ずるものあり若しこの小

球五個七個等の奇數あるとき、決して懐妊することなし。但しこの小球の交合しよる後二三日を経て生じ更に無數の小球に分裂れて精虫を圍繞み十二三日に至ればその大さ豆の如くにふるまれを二層の膜にて包む。その膜と膜との間に膠質の液汁ありて胎兒の恰もこの膜内に游泳す。まとし五六日頃にはそれ形鞅繪のことくありて始めて腦髓脊髓を生し頭の側面より胡麻粒の如き眼を生し口さけて下顎と離れ二十日を過ぎて鼻耳を顯し一月の末に

恰も疣状の手腕を生せるとも未だ足を生せずして尾の末とさきものあり二月の中頃に漸く脛及び足を生ずるも指を分たせ七十日に至ればのや眼の臉を生し口唇備はりこれより漸々に行血管消食器及び呼吸器等を生し三月の末に胎兒器備はりて二十二三夕の衝量あるに至る四月より一月毎にその量目を増加し五月に至ればの骨稍あさく指に爪を生し頭に細き髪の毛を生し六七月にその体軀全く備はり八九月にてその大さを増し懐妊より大約

二百八十日にて出産するものなり胎兒の始に男女の別なく大抵懐妊の後三月より四月までの間におもひに男女とあるものあり故に男女の申いつれを求むるも自在なる法あり下章に説るん

不妊の理

男女交合して懐妊を成すの自然の理なれとも以てにても必ず懐妊するものなりあらば婦人此月経終りたる後十四日乃至十六七日の中を懐妊の期とす此の間卯子毎に子宮にありて薄き膜に拘

留られておれぬありこの期を過ぎるとき卯子宮にあらざるがゆゑにさへ交合なれども次の月経後まては決して懐妊をへらざる又尋常二十歳の男子には未だ精液中に精虫存されぬ懐妊するものと能はざる又壯年の人といへとも房事の度を過ぎもの精虫の發生する違ふがゆゑ是又懐妊することなし

さてまゝ如何しても懐妊せざる婦人ありて世人これを石女といへと中にはそれもあるらん多く男

子の精液の生力とぼしきもゑからんその生力の乏
しきの精球とて精虫を容るゝところの細球常に成
熟せされぬかり「恰も兒童の精液に異らる故に交合
のときに愈快を覺ゆるも決して懐妊するはとなく
殊に淫情淡薄にして陰莖の痿縮することも甚く速な
りまれ多くの少年のときより妄淫又の手淫を恣に
して精液の元素を損ひたるに原因けり又男子壯健
あるも婦人に花風病或は淫慾無厘ともいふべき一
種の病あるもの決し懐妊することおしよる身

体虚弱にして卵巢熟せざるも或は子宮に病あるも
或は月經不調溢血等を煩ふときハハつれも懐妊そ
るはとかし此等の男女の時によりて懐産をること
あるも流産し或は出産するも生長しよる多くハ
不具のもしあるへい
されば男女ともに人の父母さらんと欲せぬその身
体を健康にし交合の度を過すへららる交合の度を
過るときハ男子の精液の造りよるに關きよりその精
質粗悪淡薄にして水分多きかゆゑに強壯ある子女

を得ることなし故に少くも四五日間精液を蓄へて
後爲るときはその生力強くして水分少きゆる生兒
もまた極めて強壯あるへし又婦人交合の度を過す
ときの子を産むに機關を損害ふ殊に月經の間とき
びしく交合を禁むへし若しこれを犯るときは大に
陰部を損害ふものあり慎むへし凡て男女共に生殖
器に疾病ある時或と事に屈耗することあるときか
とにの緊くまれを忘むへしまれその身の不健康の
みあらしその生兒果して拙劣或は不具とされいな

り試に思へ伶俐なる人の子に存外の痴呆ありま
古今の英雄豪傑とゆゆる、人の多くは野合私通の
設けざるを故に伶俐れ子女を得んと欲せし男女と
もに精神と身體の安寧あるときにおゐて精一ば
の力を盡して交合るへし然るときは身體の害に
あらしめるのみあらしその歡樂もまた充分あり

懷妊自在法

故に強壯ある美兒を懷妊せんとするにその兩親
の健康と注意とにありとそ懷妊の期と既に前に云

へることく月経後凡そ半月の間おれば男女ともに健康にしてその期中に交合おるときは大抵懐妊するものあり然れともその最もよき機会に遇はれその期中よりとも懐妊せざることあるへしその好機会とい月経止んで後七日より十日の間とす但前にもいへる婦人の卵巢の内にある胞子は漸々一箇或は二箇づ、生長し最もよく熟せるもの膨れ上り月経の止むを待ちて破裂しその中より逸出しさる卵甚と奇異ある薄き膜に拘留められ喇叭管を通り

過ぎて子宮に於るまの子宮に來るまでの日數の大約二三日おれこの間の交合おともまづの懐妊せざるあり而してその子宮に來るときは子宮に脱落膜といへる膜出來てその卵を下へ脱ぬや字こ、に脱留めり但しこの膜の一週間をとり保つといへともだんく弛み終りに壞れて卵と共に下へくだらんとすされこの字ちに交合なるときは男子の精液らからすまれに觸れるりも急に懐妊をることまゝ疑ひおし懐妊するときはこの脱落膜下に落ち

そ俄にはに生長せいちやうして懐胎くわいたいを保護ほごする一つの循たてとあるか
りその懐妊くわいにんせし時日ときを概算がいざんするに二十人にじゅうにんの中十九じゅうきゅう
人にんまではこの一週間いっしゅうかん以内いらいの懐妊くわいにんふることを知り得し
たり
前章ぜんしやう不妊ふにんの部ぶに論ろんせし如ごとき故障しやうなく男女たんならともに健けん
康かうにして前まへの如ごとくふるもとへとも懐妊くわいにんせざるもの
は一月いつがつ乃至な二月にがつの間別居あひだべつして後のちに交合かうがふすれば多く
は懐妊くわいにんするものなり

避妊ひにん自在法ざいほう

懐妊くわいにんを欲ほせざるものハ月經げつけい止やんでより十四日じゅうしにち乃至な
十六日じゅうろくにちを経て後のち交合かうがふあそべしこれ前まへに云いへること
くその期きを過とぐれハ卵らんも膜まくも子宮きさうを離はなる、がゆゑ
に來月らいげつの月經げつけいまでハ決けつして懐妊くわいにんするまとおければ
なりその卵らんと膜まくの脱だつる候こうハ前まへ以もつて知るまど難かたしど
へとも大抵たいてい十六日じゅうろくにち乃至な十七日じゅうしちにちを過とぐればその脱だつるまど少せう
しも疑うたがひおし而しかしてまの卵らんと膜まくとの下おりる時ときには
陰門いんもんより薄うすき水みづれや穿あぶるもの溢あふれ出いで、陰門いんもんの
外部ぐわいぶまでもぬらしそれより二三時間おほさんかんを経て微痛びつうを

覺へ殆と子宮を引張る、ちよとき氣味ありて大さ
 豆やとある灰白色の凝物出づるなりこれその下り
 する証據にして當人確とこれを見とめふり次は月
 經まての懐妊の心配あるまとおし
 又月經止みて後二三日間の卵未と子宮に來らそし
 てその道中にある間おれの大抵の懐妊をることお
 しとゆへとも男子の精虫の子宮の中にいつも二十
 四時間活きのこるゝもゑにたとひ卵の來る時に交
 合せずともその活きれこるところの精虫卵の來る

や否や忽ちこれに喰入りて懐妊をおそふとあり故
 によくこの道理を知るに至ての懐妊避妊意のまゝ
 あるへし、よりて佛國の婦人のおれを避くるに頗る
 妙を得るとゆふおの婦人等よくその卵の脱る候
 を知り或のまゝ自ら指をゆれ卵を投して撮み出し
 或の卵の子宮に來るときおれを障ふる遮膜即ち脱
 落膜を破り棄るものありとこれらの術の健康を害
 するほとのことにはおらされとも決して爲すへら
 らざるまとなり

以上説くことく懐妊を避くるに或は卵と膜の自然に下りるを待ち或は卵を棄或は膜を破る等種々に法ありといへとも到底男子の精虫を勤絶するに如るすその精虫を勤絶するの法數種ある中に劇烈なる薬を用ひるに至て危険なれにけつして爲そへららす酒精のさやと激しうらすして効驗ありといへとも健康を害するものなれに或は又用ふへりらそ但し電氣の震動を用ひるに無事安心にしと効あり又冷水(白綠礬を加ふるも宜し)を用ひるも効あり

て更に害あるまどおし「交合の後直に水銃にて陰部に注射し洗ふあり」

以上論せるとあるに因れば懷妊避妊ともに意のよとくにしてその書名を自在法といへるの妄ならざるを讀者も信すべし尙不次章に子女の男女を自在に得るの法を記さん

男兒女子を自在に得る法

右の卵巢にほる卵に精虫觸るれば生兒男とあり左の卵巢にある卵に精虫遇へば生兒女とある故に婦

人交合したる後に枕を右にすれば右妊み枕を左に
 それは左妊むといふの説古来よりあれとこの陳腐
 の説にして當今の人の更に信用せさるとはるより
 そもく胎兒の男とあり女とあるの懐妊の始めより
 判然區別のあるにあらず如何とされは胎兒の體軀
 未だ全く備わらざるうちに男兒の睪丸とあるべき
 ものの體中にありて女子の卵巢となるへきもれと
 その位置及び形狀少しも異なるまとかく胎兒の漸々
 生長するに従に強ひて男女の性を賦與して男とあ

し女とあそものおればかり然るにあ、にまた一説
 ありその胎兒の男女と分る、原因の懐妊する時の
 瞬間の模様によるものにしてこれを經驗せしに夫
 婦のすち何れにても氣力の強き方生兒の性を造る
 ものにて若し夫婦ともに強けれとまた感力に強弱
 ありて男女を分つ此感力は年齢によりて異なりと
 へとも夫婦ともに壯年おれの年長のものつよし
 故に中年の男子年少の婦人と交合して懐妊それの
 男兒を産み中年の婦人少年の男子と交合して懐妊

それば女兒を産むを見て知るべしと、これまた一概に信じ難し如何とあれば人々の情慾區々あれば本人の外その強弱を知ること能はざれば必ず故に胎兒の男とかり女とあるの懷妊せし後夫婦の愛情の原薄に因るの説最も信に近しと、その証に婦人平生の交合にいつも愈快を極めしも懷妊の後頓にこの味を失ふものあるにその夫常にうらさずこれと交合するときは胎兒その男子の情に感じて男子とかりまゝさるる婦人その夫の意に随ひてして交

合を拒むるときは十中の九まで女子とあるかり通例情の濃き婦人の女子を産み情の淡き婦人は男兒を産むを見ても亦知らるべしさてまゝまゝにその秘法を説うんに先ず男兒を得んと欲せば婦人の月經止んで後三日を経てより凡そ二月の間適度に交合をさしそれより斷然と交合を廢するがやへに尙や婦人の傍にだも寄ることあられまゝ女子を得んに之同じく月經後二三日を経てより一二度交合をさしそれより一月乃至二月

の間決して交合をそべうらず然るときはその胎
 兒男子の氣に感ぜざるより女子となるまを得べし
 まゝそれ生兒の容貌の父母に肖る理合の實に奇妙
 のものにして凡そ懷妊申夫婦別居するときはその
 兒多くは母に肖似しまゝ情の濃き夫と始終一家に
 あれば大抵父に肖似するものなり若しその婦人他
 の男子と交合をして懷妊しその後別の男子と配偶
 するときその胎兒實の父に似ずして却て後れ男
 子に、るのまれば婦人の狎昵む人に似るもこれに實

に不思議とゆふも餘りあり

懷妊避妊自在法 畢

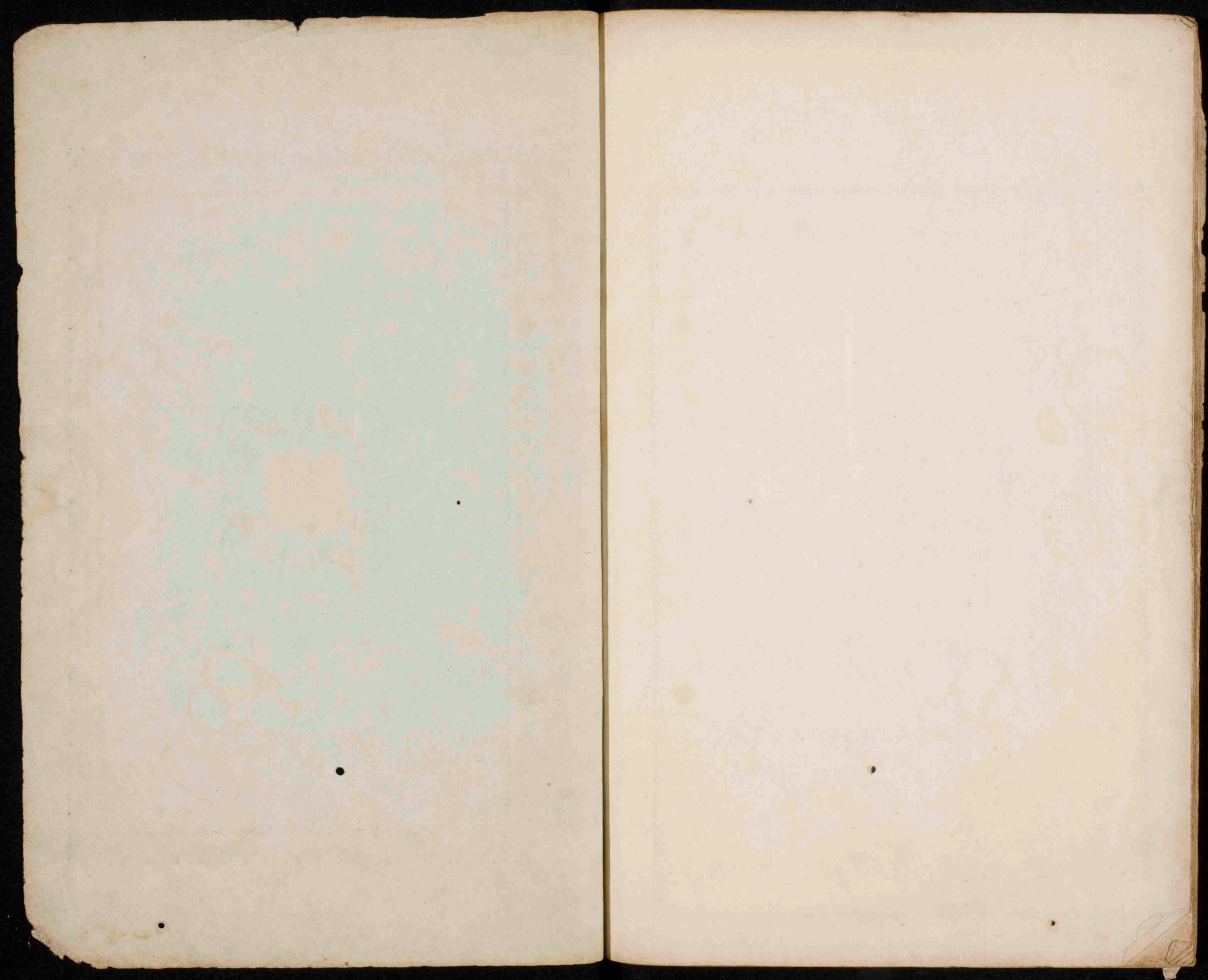
其後編圖書并一法由。曾漫何明保。...

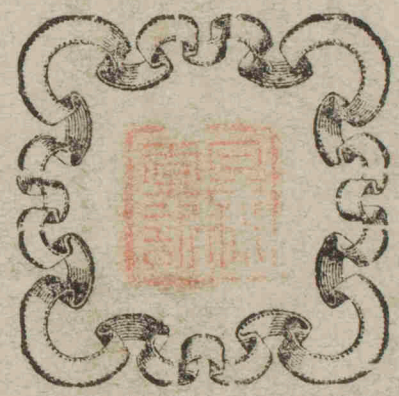
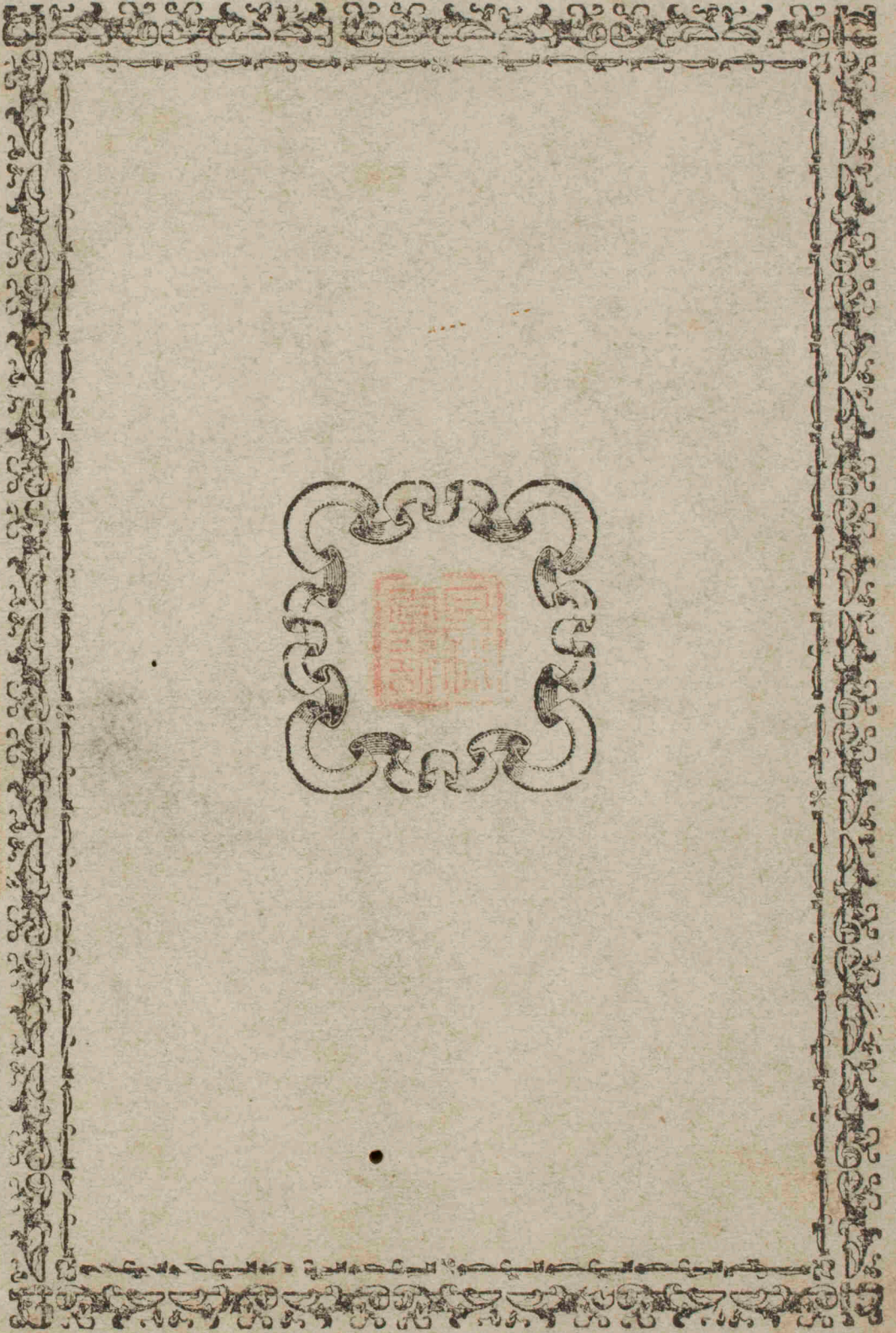
其後編圖書并一法由。曾漫何明保。...

其後編圖書并一法由。曾漫何明保。...

如早寶華瓶

其後編圖書并一法由。曾漫何明保。...





大垣町活版所刷行